

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大利根学園
大利根ふじこども園

1. 本園の教育目標

子どもひとりひとりを大切にし、豊かな子どもの育成を目指し、「やさしく たくましく げんきなこども」を教育・保育の目標として、次の3項目と6つの目指す幼児像を掲げる。

- みんななかよく・・・思いやり
 - ・約束を守り、仲良く遊ぶ子
 - ・人の痛みのわかる、思いやりのある子
- 自分のことは自分でできる・・・自立心
 - ・友達と遊び、健康でたくましい体をつくる子
 - ・人の話をよく聞き、自分の考えや思いを話すことができる子
- つよいからだとやりとげる心・・・生きる力
 - ・元気にあいさつができる子
 - ・生き生きといろいろなものに興味を持つ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を達成するため、園児一人一人との信頼関係の構築に努め、園児が安心して自己表現していく中で、お互いを認め合いながら成長していけるように保育計画をたて実践していく。そのためには、保護者と園とが、園児についての情報を共有し共通理解を図ることが必要である。また、支援が必要な家庭や子どもについては、園・家庭・地域社会とが連携しながら対応していく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもとの信頼関係の確保	A	一人一人の園児に対してスキンシップや遊びを通して子どもとの関係を深めてきた。スキンシップは子どもの心の安定に繋がり、安心して自分の思いや考えを表現できるようになる。保育教諭としての適切な言葉遣いや適切な対応の仕方も全体として、心がけられてきている。
2	特別支援教育	B	支援を必要とする子どもが増え、児童発達支援センターや民間の療育施設を利用する子どもも増えてきている。子どもを理解し、保護者と園、関係機関等との間で、必要な情報を共有し合い、一層密に連携・協力し、支援に努めてきた。人員の配置や不足をどう補っていくかが課題である。
3	保護者理解と個別対応	A	園児の家庭状況や変化を把握し、特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応ができるように心がけた。これまでの保護者との連絡方法に加え、新たに連絡アプリ「ルクミー」の機能を取り入れ、保護者とのコミュニケーションをきめ細やかにとれるようにすることができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	教職員は、園児一人一人の個性を理解し、興味・関心をもとに子どもの自主性を生かした保育を進めようと心がけてきている。保護者とも直接連絡を取ったり、必要に応じて個別に面談等も行ったりして、子どもに対する共通理解を図ってきた。また、連絡アプリ「ルクミー」により、細やかな連絡が取りやすくなり、情報共有・相互理解を深め保育に生かすことができた。 教職員が客観的に自らの保育・教育を振り返ることで新たな課題が明らかになった。それらの課題を教職員間で共有し、園全体の課題として実践していくことで、本園としての保育・教育目標を達成することができると考える。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	日常保育のための環境構成	子ども達が自発的にかかわれる環境の構成やこども園として異年齢の子どもが交流できるような機会が特に1号認定の子どもは行事のみになりがちであるので、保育の中で時間をつくる取り組みを行っていく。また、衛生的で安全な環境の構成を園全体で取り組んでいくようにする。
2	教育課程の編成と評価・改善	日々の保育・教育の内容の見直し、改善していくことで、次の保育活動や環境構成に生かしていく。また、子どもの成長の様子や変化を記録し評価することで、一人一人の子どもの思いや自主性を尊重し、主体的な保育・教育活動に繋げていけるようにする。
3	研修の充実	進んで、園内・園外における研修に参加する機会をもち、自らの保育について見直すともに、保育の質の向上をめざす。また、学んだことを職員会議等で報告し合うことで、研修成果を広め保育に生かしていけるようにする。

6. 学校関係者評価

教職員による自己評価及び保護者による学校評価をもとに評価を実施した。
今後のこども園運営の改善と発展に努めていく。

- ・おおむね適切な保育運営がなされている。
- ・子どもたちは、季節に応じたのびのびとした中にも規律ある生活をしている。
- ・子どもの人権に配慮し、一人一人の個性を伸ばす教育・保育を心がけてほしい。
- ・園行事等を工夫しながら実施することで、子どもたちが園で生き生きと活動する様子や成長していく姿を見ることができる。
- ・連絡アプリの活用により、園と保護者間の連絡が取りやすくなり、家庭においても夫婦それぞれが登録し、夫婦間においても園における子どもの情報を共有することができる。
- ・親子デーや学級懇談など、保護者同士の交流や意見交換の場を設けることで、保護者同士のつながりを深め、子育てを支援していく。
- ・安全面や衛生面を重視し、引き続き園内の施設・設備をはじめとした環境整備を進めてほしい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。